

編 集 後 記

この別冊の企画を編集委員会に提出したのは昨年夏。編集委員会です承され、公衆衛生院部長会議で承認されたのは昨年の9月だった。企画に当たっては、とにかくこの10数年、移転と再編に明け暮れた国立公衆衛生院の記録をなんとか残したいということを考えた。幸いにして、公衆衛生院の発足以来の50年の歴史は、その都度の発行物によって記録されており、それ以降の1988年から2001年の激動の時代の記録を資料化するという計画が実現し、院全体の職員の協力で刊行することができた。各学部の13年間の記録では、省庁統合で独立行政法人環境研究所に学部ぐるみ移管した廃棄物工学部のみなさんをはじめ、退職や異動をされている部長さんや、部長空席のために室長中心に記録をまとめていただくなど、結果的に多くの方の手をわずらわすことにもなり、関係者の方々に厚くお礼を申し上げるとともに、この間の歴代院長の並々ならない苦勞を記録する機会を与えていただいたことにも感謝します。なお、こうした記録とともに、後半には、この期間の出来事を部長会議の議事録をもとに年月を追ってまとめてあり、移転・再編に関連した資料のうち、重要と考えたものはそのまま掲載した。

1938年、わが国で最初にPublic Healthを「公衆衛生」という言葉に置きかえて発足した「国立公衆衛生院」の名称が消え、厚生労働省のすべての組織から「公衆衛生」の名前が消えた今日、国の公衆衛生にかかわる教育・研究機関が選択したものが一体なんであったか、将来のその時々に関係者が判断する際の資料の一部になれば幸いである。

(T. U.)